事例No.	1631
公表年度	R4
団体の属性	一部事務組合等
団体名	八戸圏域水道企業団

事例区分	公営企業

タグ	・（公営企業）水道事業 ・公共施設の集約化等 ・事務の共同実施

事例種類	広域化等

事例内容・タイトル

北奥羽地区水道事業協議会による新たな広域化

出典

公営企業の持続可能な経営の確保に向けた先進・優良事例集

【八戸圏域水道企業団】
北奥羽地区水道事業協議会による新たな広域化

広域化等 **水道事業**

八戸圏域水道企業団経営企画課

● 取組の概要

「水道事業の総合的な発展」と、「合理的かつ効果的な事業運営を図る」ことを目的とし、北奥羽地区水道事業協議会を設立した。「4つの共同化」を設定し、戦略的な広域連携について検討を開始するとともに、防災訓練及び各種研修会を共同で実施。

◆総事業費　なし

◆背景

- 個々の水道事業体は、人口や給水収益の減少、財源確保、施設の更新、専門職員不足、技術の継承等、様々な課題を抱えており、単独で対応していくには困難な状況にある。また、平成25年に広域的水道基本調査を実施し、更なる経営基盤の強化の必要性を確認した。
- これらの課題を解決するため、近い将来実現可能であろう「4つの共同化」をについて検討することとした。

◆具体的内容

- 更なる経営基盤の強化のために、①施設の共同化（施設能力や水源の余剰の共同活用）、②水質データ管理の共同化、③施設管理の共同化（保守点検業務のレベルアップ、平準化）、④システムの共同化（マッピング・料金・財務会計システム）を検討し、うち水質データ管理の共同化について事業を開始している。
- 災害時等における相互支援体制の整備やソフト面での連携強化を図るため、協議会会員全体での防災訓練や各種研修会を実施している。

◆効果

- 防災訓練や各種研修会を実施し、職員間で技術力や専門的知識を共有することにより、個々の技術力・専門的知識の向上及び職員の信頼関係の構築が図られた。

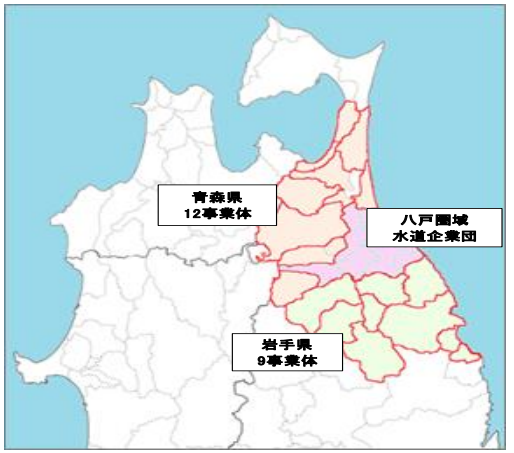
● 取組のポイント

- 八戸圏域水道企業団が水質に関するデータベースを構築し、協議会会員から委託を受け、水質のデータ管理を行っている。また、水源の課題、浄水工程の処理状況の評価を行い、浄水運転の管理方法や施設の改善方法の提案を行うことで、的確な評価・助言のフィードバックが行われ、浄水処理への対応や水質に関する知識の向上が図られた。
- 事務的分野・技術力分野における様々な共同研修会として、減圧弁研修会・水理解析研修会等を実施している。

● 公営企業情報

- 行政区域内人口　314,051人（令和4年3月31日時点）
- 行政区域内面積　1037.99km^2（令和4年3月31日時点）
- 給水人口　300,805人（令和3年度決算）

北奥羽地区水道事業協議会位置図



● 取組のスケジュール

- 平成20年　22の水道事業体により協議会設立
- 平成25年～　「八戸圏域周辺地域における新たな広域的水道基本調査」実施
- 平成27年　水質データ管理の共同化を開始

● 今後の展望

- 施設の共同化、施設管理の共同化及びシステムの共同化については、現在検討中。
- 共同化以外にも従来の事業統合、経営統合や第三者委託など、各々の関係事業体の意向に沿った水道広域化や、官官・官民連携の基盤づくりを検討することとしている。